



石上立夫（左）と佐渡卓（右）

### 亭坂が選ぶ寅次郎シリーズ No3

## 2017年03月01日 「出光佐三→佐渡卓」

海賊とよばれる男の映画を見終えても何かもやもやする。

本を引っ張り出して、斜めに読み直した。

引っかかる所はじっくり読んだ。そして、プロフィールを見た。うーん？ もしや？ と思った。佐三は明治42年に神戸高等商学校を卒業している。

名門学校を出ても、彼は丁稚奉公から人生を始めている。それは仕事を一から覚える為であった。

そして波乱の人生は、日本の復興と歩調を一にする。まさに日本人の真骨頂とも言うべき生き様であった。

寅は昭和34年に上京して、日本国土開発(株)に入社した。

その時の社長が佐渡卓である。(4代目)

ほっそりとした、白髪 of 紳士。とても土建会社の社長風には感じられなかった。

佐渡社長は大正8年に神戸高等商学校を卒業している。何と、出光佐三の後輩である。昭和30年、佐渡は三井信託の社長から、転進してきた。出光は石油で日本の復興に寄与。佐渡は土木建設で日本の復興を目論んだ。

当時は、重機賃貸業で出発した会社も、大きな転換期であった。賃貸業から、工事の総合請負業へとシフトする時だった。大型重機による、大土工事を売りに、飛躍を図った。

佐渡は事務方であったが、経営能力に優れていた。以後、16年間社長を務め、後進に道を譲った。その後も会長、相談役として終生、国土の発展に尽力。

神戸高商には凌霜会というOB会がある。

その凌霜会東京支部の初代会長が出光佐三。二代目会長が、我が社の佐渡卓である。佐渡社長は現場にも、よく来られた。前にも書いたが、吉田松陰の甥、杉道助もかつて会社に在籍した。凄い人達と、一時期を会社で過ごしたものと、今にして思う。

蛇足ながら凌霜について我が郡上藩の近代史に凌霜隊と言うのがある。明治維新の時、官軍が会津若松鶴ヶ城で戦った。その時、凌霜隊は白虎隊と共に官軍と戦った。江戸幕府最後の生き残りである。

6年前、その凌霜隊140周年フォーラムに参加した。

その年、生まれた孫に凌太郎と命名。

繋がりをを感じる 寅次郎  
(敬称略、御免なさい)